

シンポジウム

「縄文時代の編組製品研究の到達点—地域性と素材に注目して」

- 会期：10月13日（土）・14日（日）

参加費無料<資料代およびワークショップに参加される方のみ有料（実費）>

- 場所：佐賀県立美術館ホール（佐賀市城内一丁目15-23）
- 主催：あみもの研究会（代表：鈴木三男 東北大学名誉教授）
- 趣旨：縄文人がいつ頃から植物素材を編み、組んで敷物や入れ物として使い始めたかは未だ明らかではないが、縄文時代早期末の佐賀市東名遺跡では高度な技術と素材植物選択を以て制作された編組製品が大量に出土した。これらを見るとその技術の源流は更に大きく遡ることが予想される。そして高度な技術を以て制作される編組製品は素材と技法の上で早い段階から地域性を持っていたことが窺える。このシンポジウムでは、まだまだ出土例やその詳細な研究事例が十分ではない状況下ではあるものの、現在における縄文時代の編組製品について素材植物を視点に置いて全国的に通覧することを試みる。

—13日（土）—

12時30分 受付

13時00分 趣旨説明：鈴木三男 10分

13時10分 総論：山田昌久「縄文時代の編組製作の技術」30分

13時40分 <休憩15分>

13時55分 地域論：千葉敏朗「関東地方の編組製品 下宅部遺跡を中心として」30分

14時25分 本田秀生「北陸地方の編組製品」30分

14時55分 濱田竜彦「山陰地方の編組製品—鳥取市湖山池南岸地域を中心に—」30分

15時25分 <休憩15分>

15時40分 熊代昌之「北部九州の編組製品 正福寺遺跡出土品を中心として」30分

16時10分 西田 巖「佐賀県東名遺跡の編組製品」30分

16時40分 佐々木由香「本州および北海道の編組製品」40分

18時30分 懇親会<佐賀市内：有料（5000円程度）>

—14日（日）—

09時15分 素材論：能城修一「編組製品素材に使用されている植物」20分

09時35分 小林和貴「編組製品素材の同定方法」20分

09時55分 総括：鈴木三男 15分

10時10分 <休憩20分> ワークショップ一般受付

10時30分 高宮紀子「縄文編みかごワークショップ」90分

※ワークショップは一般参加含め限定50名。並行して遺物・復元かご見学

12時00分 終了

- 申込み：シンポジウムに参加される方は、**9月25日までに鈴木三男 mitsuos@m.tohoku.ac.jp** までメールで御連絡ください。その際、必ずワークショップ、懇親会への参加の有無をお知らせください。以後の詳しい内容等のご案内を差し上げます。